第一二四四号昭和五十六年一月

特集 我が国の文教の現状と課題

昭和五十六年 年頭の所感 .....文部大臣 田中 龍夫…4

禮

▽新春でい談

高等教育 学術研究…… 社会教育…… 初等中等教育 芸術文化……… 体育・スポ - 私の見る我が国の文教の姿 …島崎 …手塚 :天野 山本 郁 晃 :: 33 26 直也…52 恒夫…39 真丈…20 仁::45



▽資 料

統計に見る我が国の文教の現状 大臣官房調查統計課…60

亡き母の遠きことども ......小倉 遊亀…58

連載第4回 国民生活とエネルギー

高エネル

书

物質の光化学的生成

田田

#

郁三···88

象平

69

生涯教育について ......

◎文部省のまど

画◎須田国太郎歩む鷲

(大家英明)文化財≫シーボルト妻子像螺鈿合子(岩崎吉一)

初等教育資料目次・中等教育資料目次 87 (大塚英明) (大塚英明)

表紙 林美紀子 カット 内部敬生

## 芸

になっているものがある。 畜が描かれていて、 ころに、木立ちがあり、家屋の一部があり、そして人間や家 日本の古い掛け軸の絵には、下の方、 絵画に例をとって、 上部の……五分の四くらいは、 考えてみよう。 五分の一くらいのと 全く空白

宇宙であって、 迫って感じられる。 が、この大宇宙の中で、 こういう絵を眺めていると、 人間や人間の生活というものはその全く僅か この絵の主人公は、 いかに小さな存在であるかが、 人間やその生活とい 空白の部分、即ち大 5 胸に \$ 0

## 首

な部分でしかないことがよく分る。

になると、人間の顔だけが、画面の主人公になっ 人公であった。殊に、セザンヌやゴッホの後期印象派の時代 これに反して、 画布いっぱいに油を塗りたくった西洋画には、 西洋画というものは、伝統的に、 ている。 空白という 人間が主

あふれている。 ものは全然ない。 それだけに、 人生の厚みがあり、 重量感に

なった芸術文化であるといえる。 こうして比較してみると、日本画と西洋画は、 全く質の異

たりから入ってきたものが基本にあって、 はない。当時の文化先進国であった支那や百済(古代朝鮮)あ たところから始まっている。 その日本画も、本来は日本人が創り出したもので その技法を模倣し

活と調和した画風と画法が確立されたといわれる。 が大和絵である それが、 平安中期以後になって、 わが国の気候、 風土、牛 ……それ

した。大和絵や浮世絵が、 えたことは、周知の事実である。 この大和絵の画法から、 鈴木春信が、浮世絵版画を創り出 後に、近代西洋画に強い刺激を与

を追い越し、 いる。 しかし、その空白には 大和絵 支那の昔の絵にも、 浮世絵は、 日本独特のものを創り出したといえる。 支那その他の模倣から始まって、 大和絵のように、大きな空白がある。 「詩」が書かれていて、 空白を埋めて これ

るものもある。 办。 日本人の描いた昔の絵にも、こうした「詩」が書かれてい れていない。前述のように、 大和絵の完成した頃のものとなると、 支那の画法そのままの模倣である。 巨大なる空白が、 巨大なる空 「詩」が書

> 白として、 そのままに画面に遺されている。

うものはどうしても説明になる。 危験性が多分にある。 「詩」が書かれているものも美し 巨大な空白美が減殺される いとは思うが、 文字とい

あったか・・・・・。 のまま画面に遺したのだろうか……。 白にこそ大きな美があることを強く認識し た人 であったろ であった……。この大宇宙に対して敬虔であると同時に、 一体日本で誰が、この空白美を、 これは確実に日本人の誰かの創意になるもの 「詩」で埋めずに、 その最初の人は、 誰で 空白

ここで想起するのは、能の世阿弥の

「せぬ暇が大切である」

が喋らず動かず、なにもしていない瞬間とそ、 ということだ……。これが「間」である。 という有名なことばである。 即ち、能舞台において、 非常に重要だ

する伝統がある。 日本の芸能の世界では、 この「間」を非常に大切なものと

この「間」は、 日本独特の美観である。 絵画における空白美と同様の範 疇 に 属す

**—** 52 **—** 

54 -

ういうような特性は、絵画の面だけでなく、 にも明確に遺されている。 絵画を例にとって、 日本の芸術文化の特性に触れたが、こ 他の芸術の分野

統演劇がある。 日本音楽があり、 絵画では、 建築の世界にも日本建築と称する伝統がある。 総称して日本画というように、音楽の世界で 詩歌の世界には、俳句、 演劇の世界では、 能・歌舞伎等の日本の伝 和歌等の伝統が あ 11

洋風化していく。 の生活にとって必要欠くべからざるものとはなっていない。 は、残念乍ら一種の古典であって、洋風化した現代の日本人 に優れたものがある。他の国に見られない、独特の芸術文化 明治以降、西洋から生活文化が入ってきて日本人の生活は 日本の芸術文化は、 日本は立派に遺して、今日に至っている。しかしそれら 総体的にいって、伝統的なものに非常

い今日のものと考え、日本の在来の芸術文化を捨てた。 った。そういう人達がいたから、 多くの人々が、西洋から輸入された芸術文化を以って新し しかし、一部の人達は、「西洋」に走らず、在来のものを それと同時に、 芸術文化も盛んに入ってきた。 伝統の芸術文化は、 今日

> であり、 される。即ち、在来の日本の芸術が、新しい時代とともに、 生きた「今日的」なものとなっていたのではないか……。 化を、西洋から輸入されたものの刺激によって、変えて新し 典として遺すことと同時に、それと並行して、在来の芸術文 いものとすることは出来なかったろうか、ということだ。 も立派に遺されているのである。 それをすることが出来たとしたら、それはやはり行政の力 もしもそれが出来ていたら、日本の芸術文化の あり かた しかし、ここで考えられることは、この時代に、伝統を古 現在とは非常に違ったものとなっていたであろうと想像 ……当時の行政官には、それだけの識見がなかったし、 行政の大きな功績となったに違いないと、

代のものとしている。 典とし、西洋から輸入したものの模倣から発足した芸術を現 日本の今日の芸術文化は、あらゆる面で伝統的なものを古

その力もなかったのであろう。

る。 演劇では、 能と歌舞伎に対して、 新劇という輸入品が

れて並存している。その間の交流は、殆んど見られない。 文学では、 音楽では 勿論皆無というわけではない。例えば、 建築では 絵画では ……こういう、二つのものが、同じ芸術文化の分野で分か 日本家屋に対して、ビルディングがある。 邦楽に対して、 和歌・俳句に対して、 日本画に対して、 洋楽がある。 油絵がある。 現代詩がある。

たものが出てくる。 演劇では、新劇の中に、時たま能や歌舞伎の形式を模倣

の技法が採り容れられている。 絵画では、油絵の巨匠梅原龍三郎の晩年の洋画に、 日本画

ても に自分の城の中に他人を入れようとしないのである。 日本が西洋に動かされることはないといってい 現代芸術は、伝統の日本芸術に動かされることはあっても、 その他の分野でも、 日本の伝統を古典として守っている人達は、それだけ頑固 しかし、この場合、 前者が後者の刺激を受けることはない。即ち、 同様の例を挙げることができる だろ 後者が前者に影響されることはあっ 、洋風の こうい

う頑固さがあったから、

今日まで、

それを守り通すことが出

来たといえよう。

国は、他にはないと思う。しかもその二つが、単に並存する 成果をあげている国は、他には絶対類を見ない。 というだけでなく、立派に芸術的にも、 ではないが、日本のように、その二つが截然と分離している こういう二重構造の芸術文化を持つ国は、世界にないわけ そして経済的にも、

倣から発足している。 独特のものとなっているが、その基本は、遠い昔における模 れたものだが、日本の伝統となっている古典も、 後者、即ち洋風現代芸術は、明らかに西洋の模倣から生ま 現代は日本

る。 前述のように、 他の分野の、 日本の伝統芸術も、 絵画の大和絵の基本が輸入品であるよう その基本は輸入品であ

日本の、 日本人の、 独創によって出発したもの は皆無であ

国と比較して、 ととで、 それだけ、 模倣を排斥したのは哲学者プラトンであったが、 模倣という問題を少し考えてみたい。 日本という国は、 たちおくれていたことは明らかである。 遠い昔においては、他の文化

**—** 55

の弟子のアリストテレースである。 他の動物にない、 人間の優れた特性だといったのは、 そ

から今日に至るまで模倣の天才ということになろう。 とのアリストテレースの思想を採用すれば、日本人は、 告

自動車、 ている。 今日では、これらの面では輸出国として、世界の脅威とされ が徹底して、 ら始まっている。 芸術文化ではなく、工業製品の話になるが、今日の日本の 造船、カメラ等は、他国の創案になるものの模倣か 他国にない優秀なものを製り出すようになり、 それが、「追いつけ、 追い越せ!」の精神

有識者は、 古典として遺された伝統的な面に対して、世界の限られた 芸術文化の面では、まだそこまでは発展していない 非常に高い評価をするようになってきた。

てきている。 洋風の、現代の面でも、 世界的に有名な人、及び作品が出

分考えられる。 近い将来には、 部分的に工業製品のようになる可能性は充

最近では、佐々木昭一郎のテレビドラマ「四季 が、 エミイ賞を獲得した。 テレビという模倣から ュ Ъ

> 出発した芸術で、 非常に喜ばしい。 こういう作品が日本から生まれたことは、

るものがある。 芸術文化というも Ŏ 皮 他の文教の世界とは、 非常に異な

の圧力をかけてはいけないものであって、 の自由な動きを尊重しなければならない。 教育によって、指導するという類 6 のものではな 何処までも、 行政 国民

れ出るものではない。 学校で先生が生徒を指導するようにして、 芸術作品は生ま

- 56 -

行政面では、どこまでも放任主義でい

助をしなければならない。 但し、民間でできないような施設は、国が作り、 たは援

の建設等は、非常に結構なことだと思う。 その点で、 目下進行中の第二国立劇場、 文楽劇場、 能楽堂

の大きな仕事である。 施設と同時に、優れた芸術家、 作品を表彰することも、

行事としては、 多分にマンネリ化した嫌いはなくもないが、 芸術祭が毎年行われている。ここまでくる 今日まで Ē

構だと思っている。 ついて考察する必要がある。行事そのものとしては、私は結大きな成果をあげてきた。……この辺で、芸術祭のあり方に

顕彰の面では、芸術院会員、 文化勲章、 文化功労者などの

だと思う。 これも結構だとは思うが、 その人選はなかなか難し V١ 問題

デミー・フランセーズの模倣から創設されたものである。 私の記憶に間違いがなければ、芸術院は、 ブランスのアカ

方法自体に問題がある。そして又、例えば、放送関係の芸術 密着したものはないのだから、これが三部門に入っていない 襲されているのだろう。が、今日、放送くらい大衆の生活と 術などというものはなかったから、 ことは訝しい。 凡ゆる芸術分野が三部門に分けられているが、この分類の このどの部門にも入っていない。創設当時は、放送芸 それがそのまま今日も踏

する必要がある。 この三部門の分け方を基本的に研究し、 新し

三部門毎に、 従来の会員が、 い会員を選仟

> 中で、圧倒的多数を占める芸術家の分野の人が、新しい会員 すれ仕組みになっている。こういう仕組みだと、 しい会員を作ることは、非常に困難である。 になる可能性が強い。現会員が少数しかいない分野では、新 こういう点も考慮して、新会員選出方法を、 もっと客観的 その部門 0

ないような努力を望みたい。 に 文化勲章、文化功労章の人選についても、 合理的にしていく必要がある。 世の批判を招か

ものでありたい。それが出来ないのならば、 国家が行う表彰は、民間の場合と違って、 こういう表彰制 万人が納得する

度はやめてしまうほうがい

(劇作家)



編

集 後

記

あれ、それよし のマドリードを選んだところに、彼の芸術に なく京都帝国大学哲学科に学んだことや、パ できる。 須田の考えによれば、近代日本の油絵は西洋の近代 はなく、根ごと移植しようとする強い意志の現われで のようなものである。彼が画家としての修業の過程か のようなものである。彼が画家としての修業の過程か のようなものである。彼が画家としての修業の過程か のようなものである。彼が画家としての修業の過程か のようなものである。彼が画家としての修業の過程か のようなものである。彼が画家としての修業の過程か にはなく、根ごと移植しようとする強い意志の現われで カった。帰国後の須田は東西の美感覚の融合というテ コーマを設定して重厚な歩みをつざけたが、大樹の下で コーマを設定して重厚な歩みをつざけたが、大樹の下で 一九一九年同学科に入り、 いっれ、 九一九年同大学の大学院を中退して渡欧するが、 須田 7 国太郎 ンド 一に立寄り、 がは旧 \_\_\_ 一六年美学美術史専攻を卒業し 制第三高等学校から京都帝国大学哲 ン、パリを素通りしてスペイ かカ月 か かけてアジ 彼の芸術に対する姿 美術学校では ャ パ 西洋の近代 ンタなど ハリではな た。 は ~ 包

た課題に対する解答でもあ (岩崎 った。 吉

かれれている。他国の油が、他国の油が、他国の油が、 テ そ 

駅い申して 本年も引 上げます。 「青少年教育施設」

きく羽根を広げる鷲を描いたマを設定して重厚な歩みをつった。帰国後の須田は東西の

たこの絵は、

彼が

6

Ť

本誌の御購読をお

を特集

(企画室)

○ 対新年号は、文教の特定分野に限定した特集とはせずに、文教全般を取り上げ、その現状と抱える課題を、できるだけ平易な形で提供するように努めました。

マてい談「これからの教育――世界の中の日本」では、数多くの国々との依存関係が強く、したがって国際協調を主視する観点が国の諸施策に求められただきました。

マにい談を認論とするならば「私の見る者が国が、特質、課題などについて海教の姿」は、いわば各論といただきました。

「大だき、限られた紙数の中で、当該分数を決した。」は、いずれ公司をといかで、資難をについて御妻当いただきました。

「大でも言えるもので、複雑多岐な内容を会が、一、当該分別を大人の先生に御担当いただきました。」は、いわば各論とするならば「私の見る者が国が、とれば、統計数値によって文章を高かんしたものですが、これについては、いずれ公司される白書によってその詳細を御報告する予定で、

月

묵

第1244号

著作権 所 有 61

印刷所

MEJ

省

「文部時報

昭和56年1月5日 印刷 昭和56年1月10日 発行

## 株式会社ぎょうせい

月刊

本 社 東京都中央区銀座7丁目4番12号 (郵便番号 104) (営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地 (郵便番号 162) 電話 東京 (268) 2141 (代表) 振替口座 東京 9-161番

株式会社 行政学会印刷所

定価200円

(〒33円) (干共)

年間購読料 2 4 0 0円

- ・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し 受けます
- ・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはもよ りの書店にお願いします